

令和6年度 林業普及週間現地情報 (8/19~8/23)

森林管理課

名刺裏面を利用した島産材普及 PR について

8月20日(火)

宮古島の島産材を PR する手段のひとつとして、裏面に主要な造林木の説明文を載せた名刺を作成した。

宮古島市内にある40年生のイヌマキ林やテリハボク林の写真を使用し、簡潔に、分かりやすく説明文を作成し、名刺交換をした方々に、宮古島の島産材を認知してもらえることを期待してる。

今後も、様々な形で、島産材の普及 PR を行い、島産材の利用拡大につなげていきたい。



イヌマキ (方言名: チャーキ) は、琉球王国時代には、王府管理の御用木に指定され、社寺仏閣に使用されていた木です。防腐・防蟻・加工性に優れている一方、成長がゆっくりで建築構造材に利用できるまでには、60年以上かかるとされています。県産イヌマキ木材は「キオビエダシヤク」という病害虫により入手が困難な状況ですが、宮古島は、優良産地として、その将来性に期待が寄せられています。

- 宮古島のイヌマキの取組み -

植える 

育てる 


使う 


名刺デザイン




テリハボク (方言名: ヤラブ) は、家具材、建築材、防風林として古くから利用されています。力強い特有の茶褐色の杓目が入気で、大径材はテーブル等に利用されています。また、種子は、「タマヌオイル」としても利用もされ、注目されています。県内で、造林されているのは、宮古・石垣地域のみで、一大産地として、その将来性に期待が寄せられています。

- 宮古島の取組み -

植える 

育てる 

使う 

名刺デザイン



完成版

(報告者: 宮古農林水産振興センター 山城)